



1. 2010年度事業報告

本総会での決議対象は、一般社団法人としての初年度(2010年7月1日～2011年3月31日)に係る内容となりますが、スライドでは2010年度の全体をご説明いたします。



学会の魅力向上に向けた主な取り組み

1. 学会創立50周年記念の諸事業
2. 会誌の魅力向上
3. 研究会諸活動の推進
4. 論文誌の投稿・採録率アップ、国際化の推進
5. 全国大会・FIT
6. ITプロフェッショナルへの魅力向上
7. 人材育成の取り組み
8. 標準化の取り組み
9. 積極的な提言と情報発信 / 社会連携
10. 運営体制の充実



1.1 学会創立50周年記念の諸事業

～ 会員サービスの一層の向上と社会への還元 ～

詳細は別冊資料を参照

- (1) 論文誌・研究会活動のオンライン化
- (2) コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局
- (3) 記念会誌、50年史の刊行
- (4) 記念論文、次世代ハンドブック、記念式典
- (5) 記念全国大会の開催 (2009年度終了)



1.1.1 論文誌・研究会活動のオンライン化

- 2008年4月 論文誌のペーパレス化
- 2008年9月 発行後2年の刊行物のオープンアクセス化
- 2009年4月 研究会活動のペーパレス化
- 2010年4月 NIIの協力を得て、低価格で購読可能な総合デジタルライブラリの公開
- 2011年1月 デジタルコンテンツ事業検討委員会設置
デジタルコンテンツの発信体制の整備、著作権の扱い、論文との位置付け等、電子刊行物の発信体制の強化に努める。



1.1.2 コンピュータ将棋とトッププロ棋士の対局

- 2010年10月11日 @東大工学部2号館
- 対局概要: 持ち時間各3時間 秒読み60秒
- 清水女流王将先手、86手で「あから2010」の勝利
- 観戦者750名超、社会的な関心は非常に高かった
- 新聞各紙、NHK、民放、ラジオ、日経ビジネス、科学重大ニュース他で紹介



あからは10の224戦の重将棋の再開戦

あから2010

「産経」、「GPS特報」、「Bonanza」、「YSS」の合編



清水市代女流王将

<http://www.ipsj.or.jp/50anw/shogi/press2.html>



1.1.3 記念会誌、記念論文、50年史ほか

- 記念会誌 2010年5月号に特集掲載
- 記念論文 記念式典で表彰
- 50年史 記念式典で配布
- 次世代ハンドブック 記念式典で成果発表
- 記念式典 2010年11月18日挙行

1.2 会誌の魅力向上

魅力ある特集の掲載 [次ページ](#)

著名人による巻頭コラム

著名人、時の人、他分野の研究者等にITについて
思うことを書いていただく。 <表紙に顔写真>

2月号: 桂三枝氏(落語家)

以降、 細川茂樹氏(俳優)

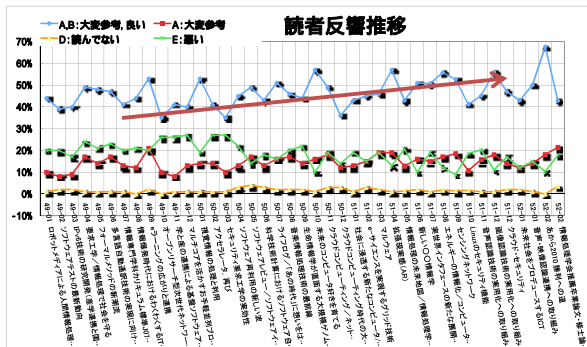
やすみりえ氏(川柳作家) など



1.2.1 会誌の魅力向上:特集一覧

会誌の特集	
2010年6月号	新しい 情報学
2010年7月号	実世界インタフェース / 最先端 VLSI テクノロジー
2010年8月号	エネルギーの情報化 / コンピュータ将棋
2010年9月号	センシングネットワーク
2010年10月号	Linuxのセキュリティ機能
2010年11月号	音声認識技術
2010年12月号	画像認識技術 / クラウド・セキュリティ
2011年1月号	未来社会をプロデュースするICT / 音声・映像認識連携
2011年2月号	あから2010勝利への道 / パーチャルリアリティほか
2011年3月号	リンクするデータ

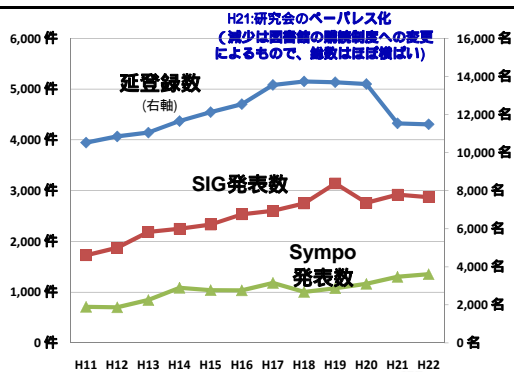
1.2.2 会誌の魅力向上:最近の会誌への反響



1.3.1 研究会活動:研究会一覧

コンピュータサイエンス領域	情報環境領域	フロンティア領域
データベースシステム (DBS)	マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	自然言語処理 (NL)
ソフトウェア工学 (SE)	ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	知能システム (ICS)
計算機アーキテクチャ (ARC)	グラフィクスとCAD (CG)	コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)
システムソフトウェアとオペレーティングシステム (OS)	情報システムと社会環境 (IS)	コンピュータと教育 (CE)
システムLSI設計技術 (SLDM)	情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	人文科学とコンピュータ (CH)
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	オーディオビジュアル混合情報処理 (AVM)	音楽情報科学 (MUS)
プログラミング (PRO)	グループウェアとネットワークサービス (GN)	音声言語情報処理 (SLP)
アルゴリズム (AL)	デジタルドキュメント (DD)	電子化知的財産・社会基盤 (EIP)
数理モデル化と問題解決 (MPS)	モバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL)	エンタテインメントコンピューティング (EC)
組込みシステム (EMB)	コンピュータセキュリティ (CSEC)	バイオ情報学 (BIO)
	高度交通システム (ITS)	教育学習支援情報システム (CLE)
	システム評価 (EVA)	
	ユビキタスコンピューティングシステム (UBI)	
	インターネットと運用技術 (IOT)	

1.3.2 研究会活動:登録件数・発表件数



1.4 論文誌:投稿・採録率のアップと国際化

正当な評価のための査読ガイドラインの周知徹底
全国大会(2011年3月)特別セッション

- 査読の仕方 / 論文の作成技法等の講演
- 論文投稿の活性化に関するパネル討論

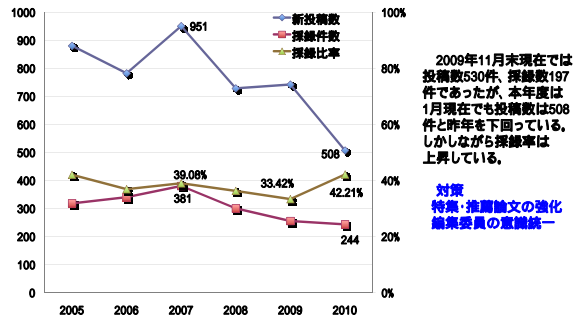
特集企画の充実

JIPの海外投稿促進と国際化

- 編集委員会の国際化、招待論文の強化整備
- 論文査読管理システムの英語版運用の整備
- 2年間の掲載料無料化

1.4.1 ジャーナル投稿・採録状況

投稿件数・採録件数推移 (2010年度は1月現在)

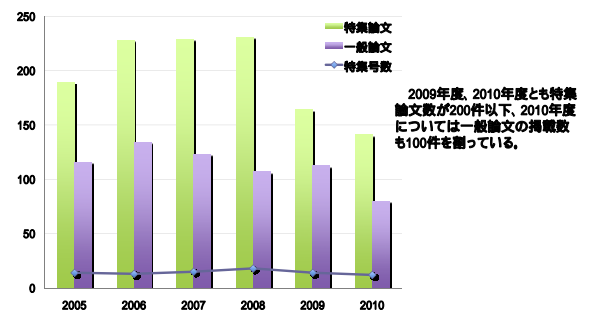


2009年11月末現在では投稿数530件、採録数197件であったが、本年度は1月現在でも投稿数は508件と昨年を下回っている。しかしながら採録率は上昇している。

対策
特集：推薦論文の強化
編集委員の意識統一

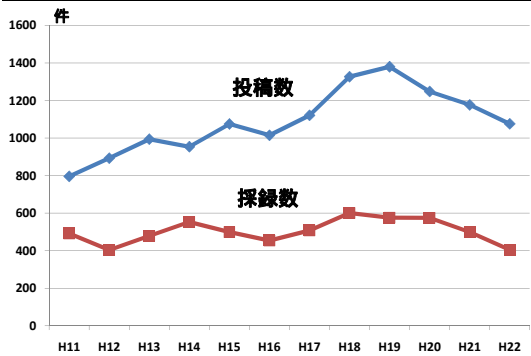
1.4.1 ジャーナル投稿・採録状況

特集企画数と論文掲載数および一般論文掲載数の推移



2009年度、2010年度とも特集論文数が200件以下、2010年度については一般論文の掲載数も100件を割っている。

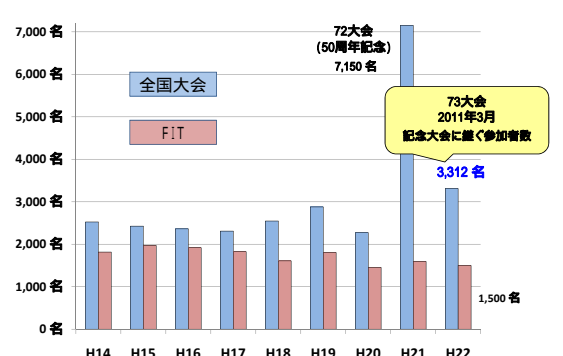
1.4.2 ジャーナル・トランザクション投稿・採録数



1.5 全国大会・FIT

- 第73回全国大会
2011年3月2～4日@東工大
参加数:3,312名、発表数:1,361件
グリーンIT 人類の未来のための情報処理技術
- 第10回 FIT(Forum on IT) 電子情報通信学会と共催
2010年9月7～9日@九州大学伊都キャンパス
参加数:1,500名、発表数:713件

1.5.1 全国大会・FITの参加数



1.6 ITプロフェッショナルへの魅力向上

- デジタルプラクティスの発刊(2010年1月～)
- ソフトウェアジャパン2011 (2月3日)
参加者:約550名、ライブ配信視聴:約8,000アクセス
「ザ・ジャパンソフトウェア」受賞講演
・クラウドが拓くカーナビゲーション未来 大西啓介 (ナビタイム)
・次世代の天気予報 石橋知博 (ウエザーニュース)
- ITフォーラム
- 高度IT人材資格制度
- 連続セミナー
クラウドコンピューティングを自由に使いこなす
全6回 登録者148名、延べ664名参加



1.6.1 ITプロフェッショナルへの魅力向上

デジタルプラクティス 特集一覧	
2010年2月創刊	サービスサイエンス
2010年4月	事業に生きる標準化の力
2010年7月	ICカードが社会を変える
2010年10月	価値を抽出するコンサルティング
2011年1月	XMLの勤どころ
2011年4月	世界に飛び出す日本のソフトウェア
2011年7月	コンタクトセンタ(仮)
2011年10月	事業に生きる我が国発の標準化(仮)
2012年1月	CTO / CIO

情報処理学会 19

1.6.3 ITプロフェッショナルへの魅力向上

ITフォーラム一覧 ～幅広い層による開かれた議論の場～	
サービスサイエンス	科学的アプローチをサービスに適用し生産性向上
ユニバーサルデザイン協創	ユニバーサルデザインの協創と情報技術の適用 「Barcode-Talker for らくらくホン」のダウンロードを学会HPから無償公開 だれもが使えるウェブコンクール アクセシブルデザイン賞受賞
ITダイバーシティ	女性IT技術者・研究者のコミュニティ活動を支援
高度人材育成	高度人材育成に向けての幅広い意見交換・討論
コンタクトセンター	コンタクトセンターを通じた顧客把握の科学的方法論の探求

情報処理学会 20

1.7.1 高度IT人材育成への取り組み

目的

- 情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じて、その社会的地位の向上を図る。
- わが国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるようにする。
- これらにおいて情報処理学会が主導的役割を果たすようにする。

基本方針

- ITSSに準拠した資格認定スキームを作成する。
 - ITSS (ITスキル標準)は経済産業省・IPAの設定したIT技術者のスキル標準
- 国際的に通用する資格とするため、IFIP IP3の認定制度との連携を図る。
 - IFIP(情報処理国際連合)がIP3 (International Professional Practice Partnership)という組織を設立し、各国のIT技術者資格制度の統一化の活動を開始。豪ACS、カナダCIPSは認定済

情報処理学会 21

1.7.1 高度IT人材育成への取り組み

体制

- 「高度IT人材資格制度設計WG」を設置 (09年5月)。企業6社からのメンバーを集め、IPAとも連携しながら、資格認定のスキームについて検討を行っている。

取り組み状況

- 09年6月 情報処理学会がIFIP IP3のメンバーに加入。
- 10年1月 IFIP IP3のボードメンバー参画。
- 10年3月 ソフトウェアジャパン2010にて高度IT人材育成フォーラムを開催。「高度IT資格制度に関する取り組みの現状」
- 10年9月 IFIP IP3のボードミーティングおよび総会に参加。
 - IP3にITSS等の日本の標準を反映すべく、Professional Standards Committee への参加検討を表明。
- 11年2月 ソフトウェアジャパン2011にて高度IT人材育成フォーラムを開催。「高度IT資格制度の現状と展望」

情報処理学会 22

1.7.2 情報処理教育活動

情報専門学科カリキュラム標準「J07」の普及等

- 情報教育の実態調査
- 国内外のカリキュラム標準の動向調査

アクセディテーションの継続

- 高校教科「情報」新指導要領関連シンポジウムの開催
- 「デジタル教科書」推進に際してのチェックリストの提案要望
- JST受託「Webラーニングプラザ：情報検索」作成

情報処理学会 23

1.8 標準化活動

◆国内 (2011年3月時点)

- 委員会数 (SC, WG, 等) 88
- 委員数 1037
 - 企業(638人)、業界団体(50名)、大学・研究機関(264人)、政府(38人)、個人(47人)
- オブザーバおよびエキスパート数 355
- 委員会開催数(2010年度) 597回/年

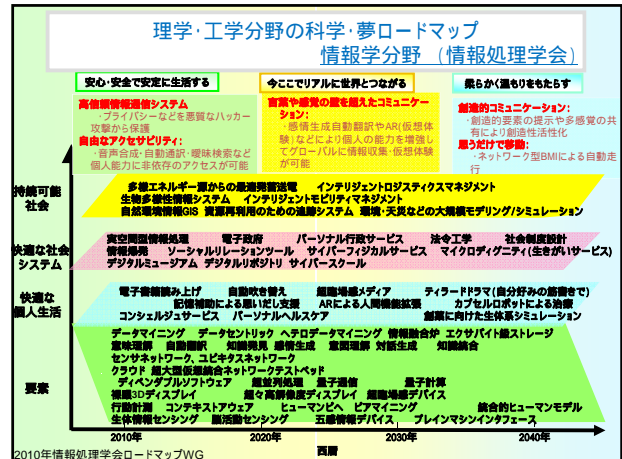
◆国際 (2010年4月～2011年3月)

- 参加した会議の数 309
- 参加した人数 1429
- ホストした国際会議数 7
- 日本のSecretariat引受け数 5 SC
SC2, SC23, SC28, SC29, SC34
- 日本のConvener引受け数 18 WG
SC6/WG1, SC7/WG6, SC7/WG23, SC17/WG3/TF4, SC22/WG4, SC22/WG16, SC23/WG1, SC23/WG6, SC27/WG2, SC28/WG5, SC31/WG2, SC31/WG4/SG5, SC32/WG4, SC34/WG2, SC34/WG4, SC35/WG2, SC35/WG4, SC36/WG2

情報処理学会 24

1.9 学会からの情報発信 / 社会連携 (1)

- 「科学・夢ロードマップ」の提言
日本学術会議 理学・工学系学協会連絡協議会
- コンピュータ将棋とプロ棋士との記念対局
1.2項参照
- 視覚障害者向けソフトの無償公開
「Barcode-Talker for らくらホン」: プレスリリース: 1月28日
http://www.ipsj.or.jp/10jgyo/forum/universal_design/barcode-talker_release.html
- 小中高生向けの活動
関西支部「小中学生のための情報科学教室」
<http://www.ipsj.or.jp/sibu/kansai/ipsj-kansai/h22schoolchildren/>



1.9.2 視覚障害者向けソフトの無償公開

- 「ユニバーサルデザイン協創フォーラム」による産学官民協働プロジェクト
- 視覚障害者向けバーコード読み上げソフト
「Barcode-Talker for らくらホン」: プレスリリース: 1月28日
http://www.ipsj.or.jp/10jgyo/forum/universal_design/barcode-talker_release.html



携帯電話でバーコードを読み上げるだけで、パッケージの中身が判ります。

読み上げ対象商品は230万アイテム以上あります。

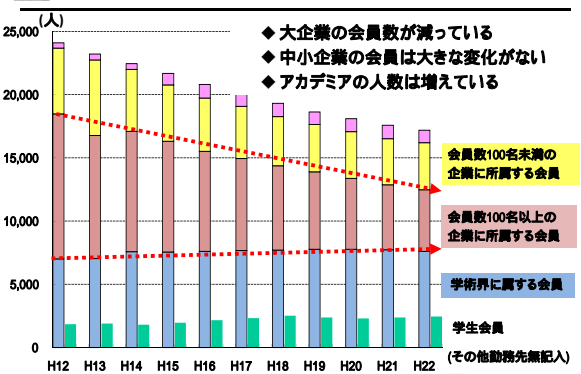
1.9 学会からの情報発信 / 社会連携 (1)

- 科学研究費補助金の分野構成についての提案
政府の主要な学術振興策のひとつである科学研究費補助金について、従来「分野・総合領域」の「分科」として扱われてきた「情報学」を「分野」レベルに格上げして扱うべきこと、情報学の深化と広がりに応じた具体的な分科・細目構成を提案した(2010年8月)。
- 各種提言など
 - 「デジタル教科書」推進に際してのチェックリストの提案要望 (2010年11月)
 - 「科学技術に関する基本政策」に関するパブコメ (2010年11月)
 - 総務省「情報通信審議会」情報通信分野の研究開発戦略に関する意見提出 (2011年3月)

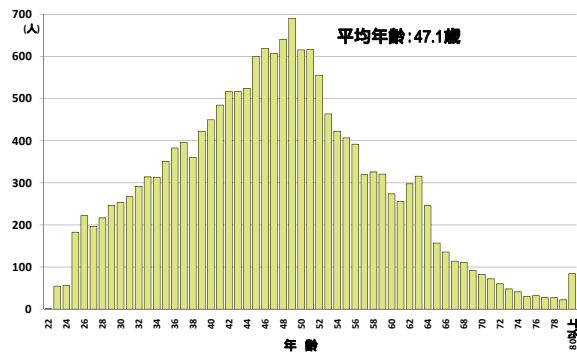
1.10 運営体制の充実

- 東日本大震災への対応
被災者への会費減免措置の適用
- 中長期計画の立案 総会資料p.14参照
- 諸活動の評価のためのデータ収集の継続
- 一般社団法人化に対応した運営
理事の責任体制の確立など
- 監事付帯意見への対応

1-付.1 会員数の推移



1-付.2 正会員の年齢分布



1-付.3 会員減への取り組み(1)

➤退会防止と新規会員へのアプローチ

デジタルプラクティスの無料公開や、技術応用活動等により実務家に向けた活動を推進し、現会員の退会防止および新規会員へのPRを継続。

➤学生会員の獲得育成と正会員への移行促進

研究会と支部が協力し、新規学生会員の獲得と1研究会無料登録を継続。

1-付.3 会員減への取り組み(2)

➤正会員数減少の抑制

正会員の減少は依然継続しているものの、減少数は抑制傾向にある(主に退会者数の減による)。

	2007末	2008末	2009末	2010末
正会員の「減少」数	685名減	536名減	513名減	401名減
学生会員数	2,374名	2,298名	2,375名	2,448名



2.2010年度決算報告

一般社団法人としての初年度(2010年7月1日～2011年3月31日)に係る決算のため、財務諸表上、新法人初年度のため期首残高はゼロ表記し、旧法人から引継いだ財産を別掲しています。

本総会での決議対象は、前述期間の内容となりますが、スライドでは2010年度全体をご説明いたします。年間数値は事業別サマリー表(p.56)をご参照ください。

2.1 貸借対照表

	(単位:千円)		
	2010年度	2009年度	増減
資産	1,220,458	1,203,534	16,924
流動資産	346,783	277,745	69,038
固定資産-特定資産	821,224	863,892	42,668
固定資産-その他	52,451	61,897	9,446
負債	239,601	213,435	26,166
流動負債	166,569	141,334	25,235
固定負債	73,032	72,101	931
正味財産	980,857	990,099	9,242

2.1.1 2009年度からの主な増減要因

[資産] 16,924 増 単位:千円

・流動資産増: 69,038 (現預金の増ほか)

・特定資産減: 42,668

(50周年関係: 26,345、デジタルプラクティス関係: 9,146
規格国際会関係: 6,100ほか)

・その他減: 9,446 (減価償却ほか)

[負債] 26,166 増

・流動負債増: 25,235

(諸事業の年度内経費の未払増: 15,243、
次年度規格賛助員費の前受増: 7,847ほか)

[正味財産] 9,242 減

2.2 正味財産増減計算書

		(単位:千円)		
		2010年度	2009年度	差異
経常増減	経常収益	676,547	746,778	70,231
	事業収益	464,557	524,782	60,225
	受取会費ほか	211,990	221,996	10,006
	経常費用	689,065	720,467	31,402
	事業費	605,641	654,999	49,358
	管理費	83,424	65,468	17,956
	経常増減	12,518	26,311	38,829
	経常外増減	3,276	1,258	2,018
	当期正味財産増減	9,242	27,569	36,811

情報処理学会 37

2.2.1 2009年度からの主な増減要因

		単位:千円	
[経常収益]		70,231 減	
事業収益減:		60,225	
- 本部 広告収益	31,045 (前年は50th記念大会)、		
論文掲載収益	7,312、教育受託増5,617 ほか		
- 規格 国際会議参加費	11,854、規格賛助員費 18,200		
その他減:		10,006	
- 受取会費	4,683、国際会議受取補助金 3,246 ほか		
[経常費用]		31,402 減	
- 本部イベント会議費	6,739、規格関係会議費 7,857、		
記念大会委託費	21,870、ハンドブック等委託費 7,096、		
その他旅費・通信費等	4,588ほか		
- 記念式典・50年史経費増	14,655、移行監査経費増 2,716ほか		
[経常増減額]		36,811 減	

情報処理学会 38



3. 公益目的支出計画実施報告書

(p.63 ~ p.93)

移行法人は、公益目的財産額(旧法人の正味財産)が、実施事業会計の計算上で消化されるまでの間、所定の様式で本報告書を提出する必要があります。

様式中、「計画記載事項」は認可された内容が流用されており、それ以外は、事業報告および計算書類からの抜粋となっています。

情報処理学会 39



4. 監査報告書

監事監査報告(p.95)

独立監査人監査報告(p.96)

情報処理学会 40



5. 新名誉会員の推薦

(p.97)

林 弘 殿

佐々木 元 殿

情報処理学会 41



6. 新役員を選任

(p.99)

一般社団法人化に伴い、代表理事(会長、副会長)および業務執行理事の選定は、本総会での選任決議後の最初の新体制の理事会(本総会直後に開催)において決議予定です。

情報処理学会 42



7. 2011年度事業計画

～魅力ある学会に向けて～

新たな公益法人関連法令下で、総会承認が不要な事業計画および予算については、「報告事項」としてご報告いたします。



7.1 新たな取り組み

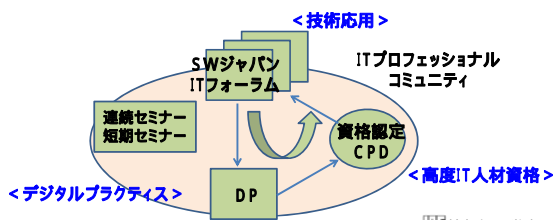
- 東日本大震災復興支援の推進
支援運営委員会ならびに同実行委員会の設置による推進。
- 国が推進する大型プロジェクト等に向けた政策提言
「情報科学技術開発の推進政策提言検討WG」の設置による推進。
- 教育・人材育成ビジョン2011の取り纏めと公表
- デジタルコンテンツの取り扱い・オンライン刊行物の新たなサービス等の検討推進
- その他、中長期計画の具体化と推進・継続的見直し、事業推進に相応しい組織の見直し など



7.2 ITプロフェッショナル向け活動の強化

➢ 資格制度 / デジタルプラクティス / ソフトウェアジャパン / ITフォーラムの有機的連携によるITプロフェッショナルに向けた価値あるサービスの訴求

➢ ITプロフェッショナルコミュニティの形成



7.3 学会誌の魅力向上

- 季節感のある編集へ
季節性を持たせた記事や特集掲載のため、一般商業誌と同様に発行を早め、タイムリーに会員の手元に届くように変更。
- 魅力ある特集
「安全安心」「震災復興」が「グリーンイノベーション」「ライファイノベーション」に代わるキーワードになり、それへの対応。
「震災復興に果たすICTの役割」「新たな安全安心を生むICT技術」...
- 巻頭コラム 前掲p.7参照
著名人、時の人、他分野研究者等にITについて思うことを書いていただく。
- 一般向け連載や記事の充実
企業若手ホープ紹介、勉強会マップ、エッセイ特集等の企画
「自己研修のためのノウハウ特集」(旧 bit や類似雑誌)
- オンライン版にマルチメディア情報、補足情報等掲載
- 賛助会員アンケートによるフィードバック



7.3.1 会誌の魅力向上:今後の特集予定

会誌	今後の特集予定一覧
2011年4,5月号(4/15発行)	勉強会マップ/インタラクティブアート
2011年6月号(5/15発行)	震災後のメッセージ/時間とコンピュータ/データストレージ
2011年7月号(6/15発行)	アナログ放送の終焉
2011年8月号(7/15発行)	夏休み工作
2011年9月号(8/15発行)	東日本大震災 危機発生時の対応について考える/IPv6/ソフトウェアパターン
2011年10月号(9/15発行)	高度ICT人材育成
2011年11月号(10/15発行)	食とコンピューティング
2011年12月号(11/15発行)	電飾コンピューティング



7.4 調査研究の抜本的見直し

- 分野・領域制度の見直し
科研費の分野構成に沿った見直しを実施
3領域(コンピュータサイエンス、情報環境、フロンティア)は変更なし
- 研究会、研究グループの見直し、新設
研究会新設:情報セキュリティ心理学とトラスト(SPT)、
コンシューマ・デバイス&システム(CDS)
研究グループ新設:情報学オントロジー
- 領域委員会への権限移譲
研究会の計画、予算は領域委員会で承認し報告
従来は調査研究運営委員会で承認
- 規程類の見直し
運営委員会直下の研究会・Gを廃止

7.5 論文誌 投稿・採録率の向上

- ジャーナル投稿の促進と採録率の向上
 - 特集企画等の強化
 - 編集委員の意識統一(2011年5月合宿)
 - 投稿・査読・編集のガイドラインの周知徹底
 - 電子化のメリット活用、マルチメディア対応
- JIPの海外投稿の促進と国際化
 - インパクトファクタ取得に向けた刊行体制の整備
 - 論文査読管理システムPRMSの英語版運用

情報処理学会 49

7.6 規格の取り組み

- 運営の安定化
 - 収支バランスの取れた構造設計と関連規程の改訂
 - 標準化担当理事を中心とした運営体制確立
 - 一般社団法人化に則した運営
- 学会第3の柱としての育成・強化
 - デジュール標準からデファクト標準等へ対応
 - 新規標準化分野への積極的取組
 - 新規賛助会員勧誘、若手委員獲得

情報処理学会 50



8. 2011年度収支予算

情報処理学会 51



8.1 2011年度予算

		(単位:千円)		
		2011年度	2010年度	差異
経常増減	経常収益	624,815	663,457	38,642
	事業収益	431,169	453,597	22,428
	受取会費ほか	193,646	209,860	16,214
	経常費用	674,424	775,910	101,486
	事業費	612,171	679,216	67,045
	管理費	62,253	96,694	34,441
	経常増減	49,609	112,453	62,844
	経常外増減	0	1,836	1,836
	当期正味財産増減	49,609	110,617	61,008

情報処理学会 52

8.2 2010年度予算からの主な変動

	単位:千円
[経常収益]	38,642 減
事業収益減:	22,428
- 本部 論文掲載収益 11,485、シンポ等参加増6,084 ほか	
- 規格 規格賛助員費 12,600、委託費 4,825	
その他減:	16,214
- 受取会費 9,317(震災対応込)、規格関係補助金 7,600 ほか	
[経常費用]	101,486 減
- 本部 記念事業関係 26,345、委託費 10,140(派遣ほか)	
- 規格 会費関係 55,363(会費、旅費、贈謝金)、負担金 6,670	
[経常増減額]	62,844 減

情報処理学会 53

8.3 正味財産減少の主な要因

	単位:千円
2011年度正味財産	49,609 減
本部所管分:	27,605
2011年度の特記事項	
- 受取会費減:会員減分 3,717、震災対応減免 5,600	
- 論文誌掲載数減による悪化 7,652、会誌コスト増加 3,940	
- 時限的な投資: DP 9,000、C将棋: 970	
規格所管分:	22,004
2011年度の特記事項	
- 規格賛助員費減: 12,600、補助金・委託費減 12,425	

情報処理学会 54



9. 会費滞納会員の取り扱い

(p.121)



END